



第81回日本循環器学会学術集会
ファイアサイドセミナー17

BNPを識る、 そして病態を読む

座長

吉村 道博 先生

東京慈恵会医科大学 内科学講座 循環器内科 主任教授

演者

中川 靖章 先生

京都大学医学部附属病院 循環器内科 助教

川井 真 先生

東京慈恵会医科大学 内科学講座 循環器内科 准教授

日時

2017年**3月18日**(土)
19:00～20:00

会場

第6会場
(ホテル日航金沢 3階 孔雀の間A)

ファイアサイドセミナーはチケット制です。

- 学会ホームページにて、共催セミナープレレジストレーションを行います。
詳細は学会ホームページをご確認ください。
- 開催当日も、下記要領にてチケット発行を行います。数に限りがございますので、ご了承ください。

【配布場所】もてなしドーム B1F

【配布日時】3/18 7:00～18:30

※チケットはセミナー開始5分後に無効となります。

【共催】第81回日本循環器学会学術集会／塩野義製薬株式会社／東ソー株式会社／
株式会社 LSI メディエンス／アボット ジャパン株式会社／積水メディカル株式会社／
富士レビオ株式会社／アリーア メディカル株式会社

BNPを識る、そして病態を読む

講演 1

京都大学医学部附属病院 循環器内科 助教 **中川 靖章**

1988年に日本の松尾・寒川等により発見されたBNPは、今や心不全及び心臓の異常を知るための標準血液検査として世界中で活用されており、多くの人たちがBNP値を参照した治療や生活習慣の改善による恩恵を享受している。

実用面ではBNPは心臓を評価する上でその臓器特異性及び感度は現行最善の検査であることは言うまでもない。心不全治療薬のアクションと効果を共に観察する上でも他に追従の余地がないのだが、一方で分子生物学的見地に立つとBNPを含むナトリウム利尿ペプチドの精密な動態が十分に研究され尽くしたとは言い難い。

そこで我々はBNP及びその関連ペプチドの詳細な動態について、BNP及びその前駆体であるproBNPの分泌機構解明を試みている。その結果、検査で得られたBNP値にさらに深い意味をもたらす事実が明らかになりつつあり、さらにその分泌機構についての有力な仮説を実証しつつあることを報告したい。

講演 2

東京慈恵会医科大学 内科学講座 循環器内科 准教授 **川井 真**

血漿中B型ナトリウム利尿ペプチド（BNP）濃度の測定は心不全に対するバイオマーカーとしてその重要性が確立され、さらに一般内科や人間ドックなどでの検査として広く用いられるようになってきた。そのために我々は多施設の協力のもとJapan Abnormal BNP Standard (J-ABS) 研究を実施し、心臓の異常を見つけ出すためのBNP濃度の目安値を明らかにしてきた。

BNP検査の圧倒的な臓器特異性とこの目安値がBNPのさらに広範囲な活用を促すに従い新たな研究の必要性も増えてきている。その一端としてだが、BNPの値に微妙に影響を及ぼす因子の検討として、我々は肥満の重症度との関係、血糖値及び糖尿病治療との関係など、BNP値が見かけの病態とやや異なる動態を示す症例に着目しその解明を試みている。すなわちBNP値をより深く読み解くための研究である。従って本セミナーは昨年の「BNP; too high, too low」の続編としてご聴講とご議論をいただければと思う。